

2018年3月20日 第531号 (隔月発行)

# アジアの友

The Asia-no Tomo

2-3

FEBRUARY-MARCH

2018

「平成 29 年度外国人留学生在籍状況調査結果」から見る外国人留学生受入れ動向  
奨学財団に間く 公益財団法人 樫山奨学財団  
新星学寮の建替えと募金のお願い





# ABK 日本語コース 2017 年度卒業式を開催

3月1日（木）文京区立駒込地域活動センターにてアジア学生文化協会日本語コースの卒業式が行われました。卒業生 156 名は楽しかった日本語学校での思い出を胸に大学や専門学校など、それぞれの進学先に巣立って行きました。



# アジアの友

2018年2・3月号 第531号

## 目次

	データ
2	「平成29年度外国人留学生在籍状況調査結果」から見る 外国人留学生受入れ動向
	奨学団体に聞く
12	公益財団法人 樫山奨学財団
	留学生インタビュー
20	だから日本に留学しました！ ルンさんとモーミンさん ～タイ
	連載コラム
23	泰日工業大学 奮闘記（第27回） 「日系ハーフの学生と大学の未来」 池田 隆
	お知らせ
26	新星学寮の建替えと募金のお願い
30	創立60周年 杉浦正健氏からの祝文
31	知友会通信
32	MEMBERS

## 「平成29年度外国人留学生在籍状況調査結果」から見る 外国人留学生受入れ動向

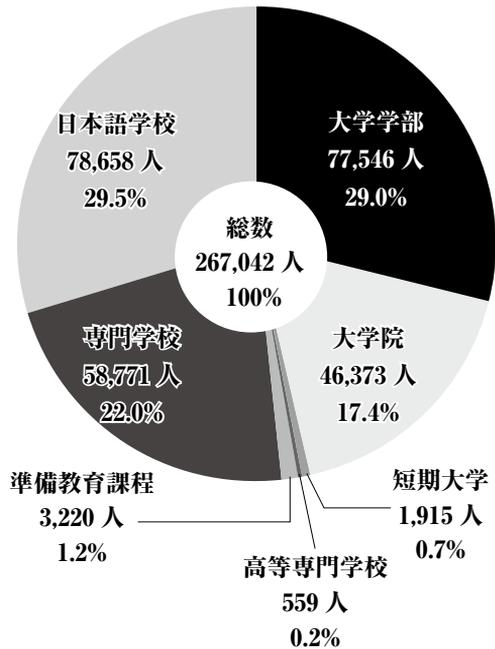
**独**立行政法人日本学生支援機構(JASSO)が調査した平成29年(2017年)度の外国人留学生在籍状況調査結果(5月1日時点の数字)によると、日本で学ぶ留学生数は前年(2016年)比2万7千755人増で、26万7千42人となり、過去最高数を更新した。2012年からの5年間で10万5千194人増加したことになる。内訳は高等教育機関在籍者数が18万8千384人、日本語学校在籍者数が7万8千658人だった。各学習機関の中で最も増加数が多かった日本語学校は1万493人増で、大学学部在籍者数(7万7千546人)を初めて上回った。

次に増加数が多かったのは、日本語学校卒業生の多くが進学をする専修学校専門課程(専門学校)で、8千536人増の5万8千771人。日本語学校生と専門学校生の合計値は全留学生のおよそ52%となり、現在の留学生増を支える主役ともなっている。

また、ここしばらく横ばい状態が続いていた大学学部・大学院に短期大学を合わせた大学在籍者数だが、2017年度は12万5千834人(前年比8,597人増)となり、この2年で1万5千人以上増加した。

このように政府が掲げた「留学生30万人」

▶ 所属学習機関別留学生数(2017年5月1日現在)

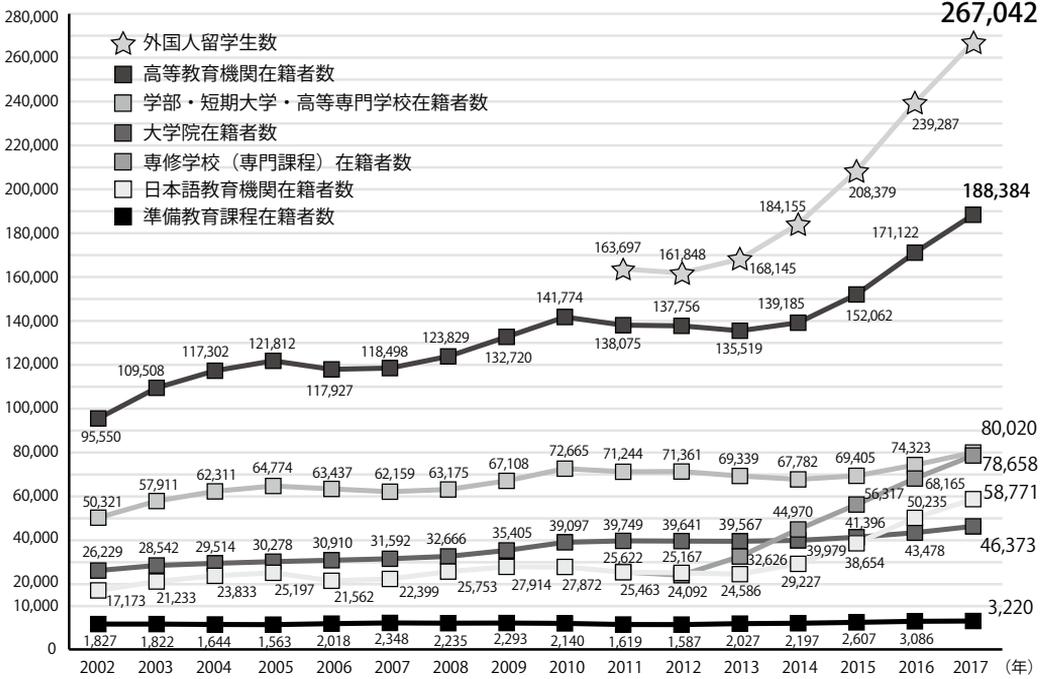


達成に向けて順調に増加を続ける留学生数だが、昨年から一部の国の出身者について入国審査が厳格化され、日本語学校在籍者数においてはその影響もうかがえる。昨年度大きく減少したネパールは再び増加したものの、以前の勢いが戻るかは不透明であり、ベトナムも増加率が大きく減少した。一方で、スリランカが大きく伸びるなど、これまでとは異なる新たな流れも見られる。

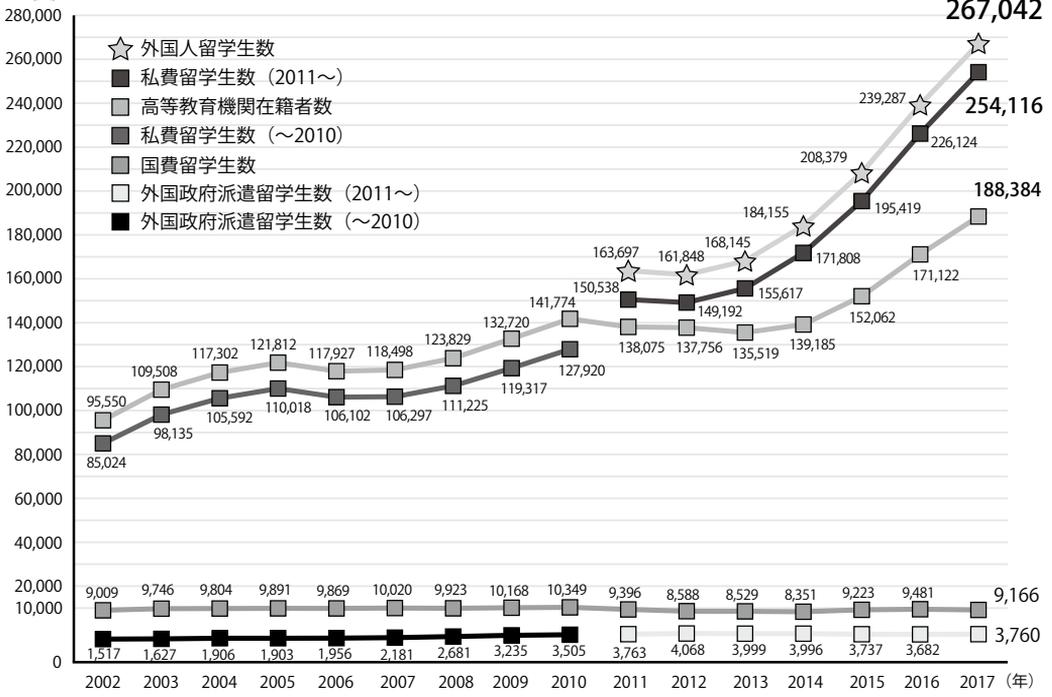
※ 高等教育機関とは、初等中等教育の次段階の教育課程である高等教育を提供する教育機関の総称。大学、大学院、短期大学、高等専門学校、専修学校専門課程(専門学校)等

※表、グラフは一部を除き、JASSOの外国人留学生在籍状況調査結果より作成

▶ 所属学習機関別による留学生数の推移 (各年5月1日現在)



▶ 留学生数の推移 (各年5月1日現在)

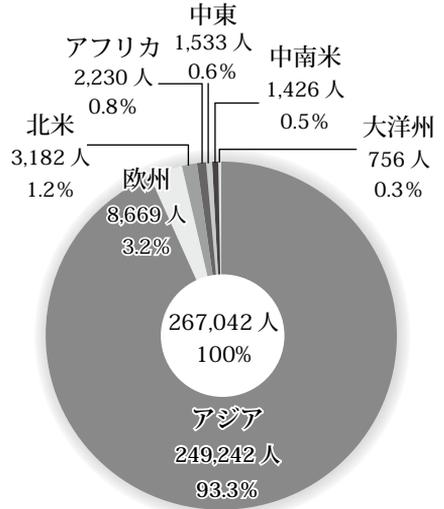


出身地域別ではアジアが93%と圧倒的多数を占める。アフリカは政府の人材育成プログラム(ABEイニシアティブ)による受入もありここ数年増加が続いている。出身国(地域)別ではこれまで通り中国がトップの10万7,260人。2014年に留学生数に日本語学校が加えられてから初めて、10万人を突破した。次がベトナムの6万1千671人。この2か国で全留学生数の60%以上を占めている。増加率で見ると6位のスリランカが前年度比66%増でトップ、次にウズベキスタンの63%増、バングラデシュ39%増と続く。

▶ 出身地域別留学生数 (2017年5月1日現在)

地域名	留学生数	前年度比増減率
アジア	249,242人 (222,627)	12%
欧州	8,669人 (7,986)	8.6%
北米	3,182人 (3,009)	5.7%
アフリカ	2,230人 (1,932)	15.4%
中東	1,533人 (1,674)	▲8.3%
中南米	1,426人 (1,390)	2.6%
大洋州	756人 (663)	14%
その他(無国籍)	4人 (6)	-
計	267,042人 (239,287)	-

( ) 内は2016年5月1日現在の数



▶ 出身国(地域)別留学生数 (2017年5月1日現在)

国(地域)名	留学生数(人)	構成比(%)	国(地域)名	留学生数(人)	構成比(%)
①中国	107,260 (98,483)	40.2 (41.2)	⑰ウズベキスタン	1,047 (641)	0.4 (0.3)
②ベトナム	61,671 (53,807)	23.1 (22.5)	⑱ドイツ	888 (874)	0.3 (0.4)
③ネパール	21,500 (19,471)	8.1 (8.1)	⑲カンボジア	846 (629)	0.3 (0.2)
④韓国	15,740 (15,457)	5.9 (6.5)	⑳ロシア	701 (684)	0.3 (0.3)
⑤台湾	8,947 (8,330)	3.4 (3.5)	㉑イタリア	654 (593)	0.2 (0.3)
⑥スリランカ	6,607 (3,976)	2.5 (1.7)	㉒英国	640 (560)	0.2 (0.2)
⑦インドネシア	5,495 (4,630)	2.1 (1.9)	㉓スウェーデン	525 (534)	0.2 (0.2)
⑧ミャンマー	4,816 (3,851)	1.8 (1.6)	㉔オーストラリア	470 (429)	0.2 (0.2)
⑨タイ	3,985 (3,842)	1.5 (1.6)	㉕ブラジル	425 (481)	0.2 (0.2)
⑩マレーシア	2,945 (2,734)	1.1 (1.2)	㉖サウジアラビア	411 (533)	0.2 (0.2)
⑪アメリカ合衆国	2,786 (2,648)	1.0 (1.1)	㉗スペイン	400 (377)	0.1 (0.2)
⑫バングラデシュ	2,748 (1,979)	1.0 (0.8)	㉘シンガポール	397 (353)	0.1 (0.1)
⑬モンゴル	2,517 (2,184)	0.9 (0.9)	㉙カナダ	396 (361)	0.1 (0.2)
⑭フィリピン	1,806 (1,332)	0.7 (0.6)	⑳エジプト	356 (342)	0.1 (0.1)
⑮フランス	1,346 (1,299)	0.5 (0.5)	その他	7,481 (6,858)	2.8 (2.9)
⑯インド	1,236 (1,015)	0.5 (0.4)	計	267,042 (239,287)	100.0 (100.0)

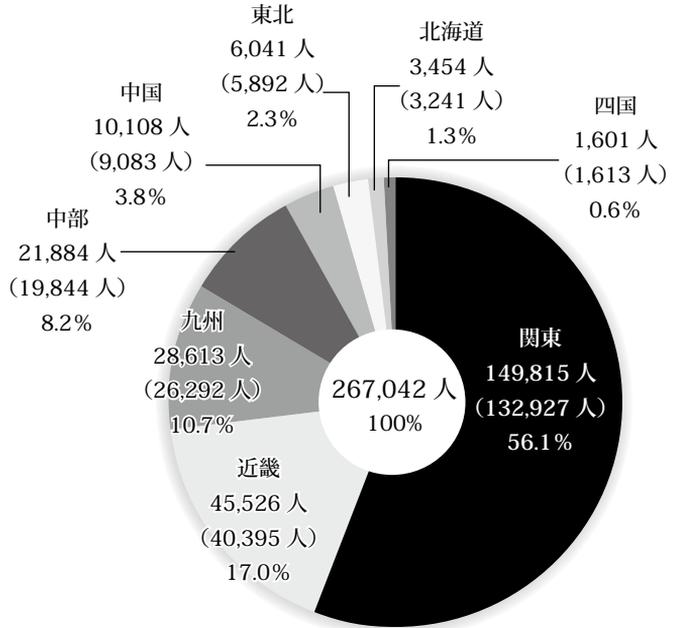
( ) 内は2016年5月1日現在の数

▶ 国内地方別留学生数

(2017年5月1日現在)

※沖縄の留学生数は九州に算入

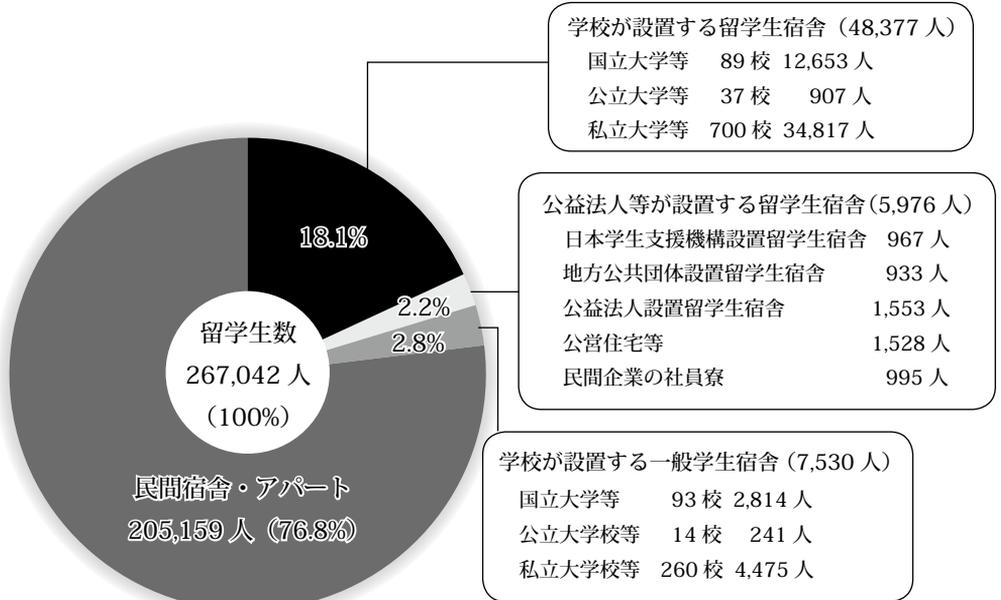
前年度からの増減率を見ると関東と近畿が前年比12.7%増。次に中国(11.3%増)、中部(10.2%増)、北海道(6.6%増)、東北(2.5%増)と続き、四国は唯一マイナス(▲0.74%)となっている。



( )内は2016年5月1日現在の数

▶ 留学生宿舎の状況 (2017年5月1日現在)

大学等および公益法人等が設置するに宿舎に住む留学生数は2014年度比で1万5千人以上増加しているが、留学生の増加率には追いついておらず、グラフの割合に大きな変化は見られない。



## 高等教育機関における留学生受入れ状況

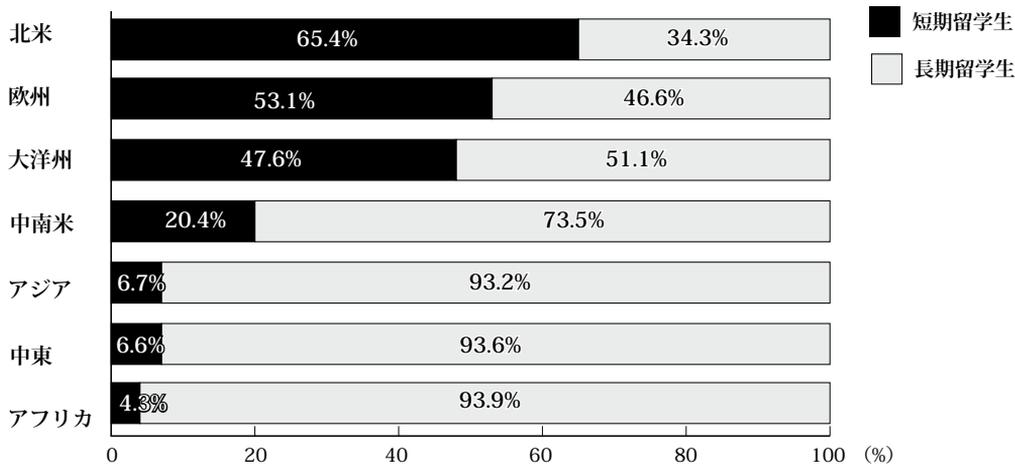
出身国別数では中国が例年通り1位を維持してはいるものの、かつて60%が当たり前だった構成比は過去最低の42%まで下がった。一方でベトナムは過去最高の19%と割合を増やしている。

### ▶ 出身地域別高等教育機関在籍留学生数（2017年5月1日現在）

地域名	留学生数	前年からの増減率	構成比	左のうち短期留学生数
アジア	173,303人 (156,556)	10.7%	92.0% (91.5)	11,387人 (10,675)
欧州	6,685人 (6,466)	3.4%	3.5% (3.8)	3,553人 (3,452)
北米	2,860人 (2,742)	4.3%	1.5% (1.6)	1,870人 (1,802)
アフリカ	2,108人 (1,857)	13.5%	1.1% (1.1)	90人 (113)
中東	1,453人 (1,587)	▲8.4%	0.8% (0.9)	98人 (101)
中南米	1,287人 (1,293)	▲0.4%	0.7% (0.8)	262人 (342)
大洋州	685人 (618)	10.8%	0.4% (0.4)	326人 (302)
その他（無国籍）	3人 (3)	0.0%	0.0% (0.0)	0人 (0)
計	188,384人 (171,122)	—	100.0% (100.0)	17,586人 (16,788)

（ ）内は2016年5月1日現在の数

### ▶ 出身地域別高等教育機関在籍 短期・長期留学生の割合（2017年5月1日現在）



欧米は半数以上が留学期間1学年以下の短期留学生となっている。一方アジアは長期留学生が大多数を占める。

外国人留学生受入れ動向

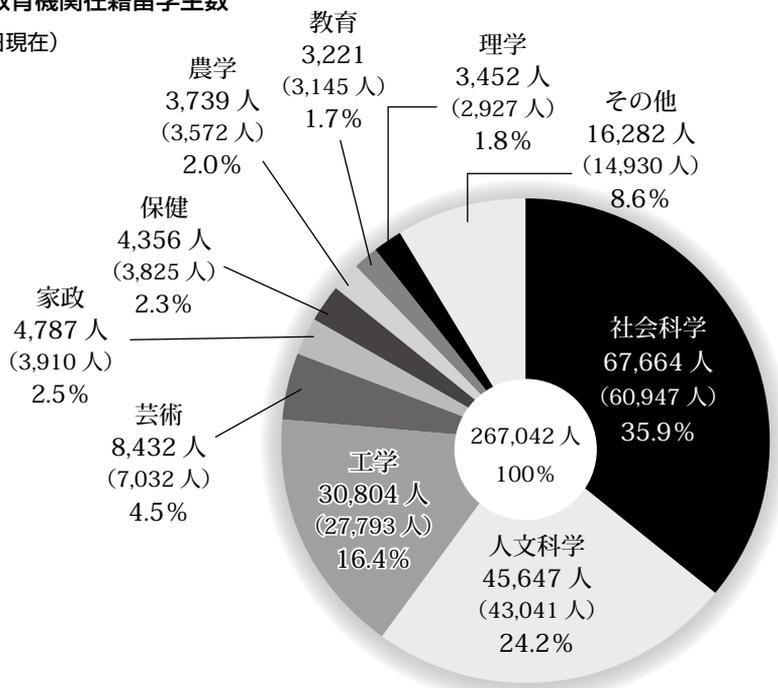
▶ 出身国（地域）別高等教育機関在籍留学生数（2017年5月1日現在）

国（地域）名	留学生数（人）	構成比（％）	国（地域）名	留学生数（人）	構成比（％）
①中国	79,502 (75,262)	42.2 (44.0)	⑰ドイツ	831 (836)	0.4 (0.5)
②ベトナム	35,489 (28,579)	18.8 (16.7)	⑱英国	563 (477)	0.3 (0.3)
③ネパール	14,850 (13,456)	7.9 (7.9)	⑲カンボジア	560 (467)	0.3 (0.3)
④韓国	13,538 (13,571)	7.2 (7.9)	⑳ロシア	512 (505)	0.3 (0.3)
⑤台湾	6,994 (6,401)	3.7 (3.7)	㉑ウズベキスタン	441 (383)	0.2 (0.2)
⑥インドネシア	4,235 (3,670)	2.2 (2.1)	㉒イタリア	436 (383)	0.2 (0.2)
⑦タイ	3,266 (3,185)	1.7 (1.9)	㉓オーストラリア	411 (387)	0.2 (0.2)
⑧スリランカ	3,020 (1,905)	1.6 (1.1)	㉔サウジアラビア	399 (510)	0.2 (0.3)
⑨マレーシア	2,750 (2,581)	1.5 (1.5)	㉕ブラジル	385 (463)	0.2 (0.3)
⑩ミャンマー	2,686 (2,079)	1.4 (1.2)	㉖シンガポール	357 (330)	0.2 (0.2)
⑪アメリカ合衆国	2,516 (2,428)	1.3 (1.4)	㉗カナダ	344 (314)	0.2 (0.2)
⑫バングラデシュ	1,919 (1,402)	1.0 (0.8)	㉘エジプト	342 (332)	0.2 (0.2)
⑬モンゴル	1,711 (1,495)	0.9 (0.9)	㉙スウェーデン	311 (307)	0.2 (0.2)
⑭フランス	1,116 (1,132)	0.6 (0.7)	㉚アフガニスタン	278 (339)	0.1 (0.2)
⑮インド	964 (880)	0.5 (0.5)	その他	6,744 (6,284)	3.6 (3.7)
⑯フィリピン	914 (779)	0.5 (0.5)	計	188,384 (171,122)	100.0 (100.0)

（ ）内は2016年5月1日現在の数

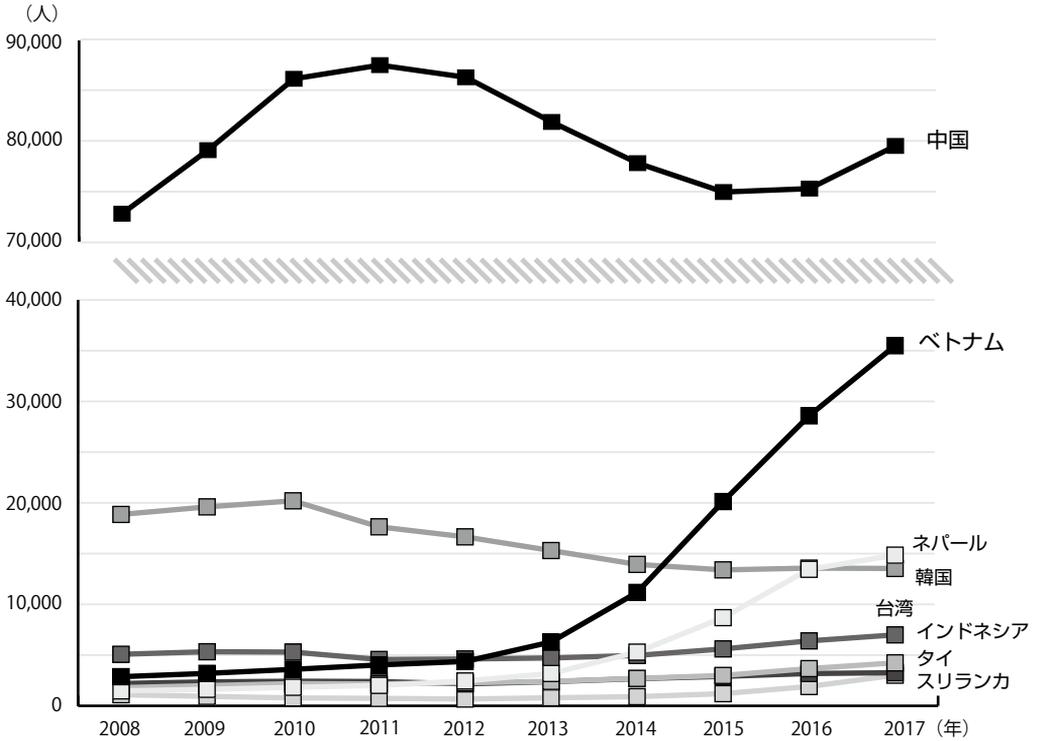
▶ 専攻分野別高等教育機関在籍留学生数

(2017年5月1日現在)



▶ 高等教育機関在籍留学生数上位国の推移 (2017年5月1日現在)

昨年度調査で震災のあった2011年以来の増加に転じた中国が5,000人近い増員をした。ベトナムも6,000人以上増加している。ネパールは前年度の日本語学校生減少の影響を受けて勢いが弱まったものの、初めて韓国を抜いて3位となった。その他インドネシアは順調に増加、スリランカは前年から1,000人以上の増加となり一気に3,000人を突破した。



各年5月1日現在。単位(人)

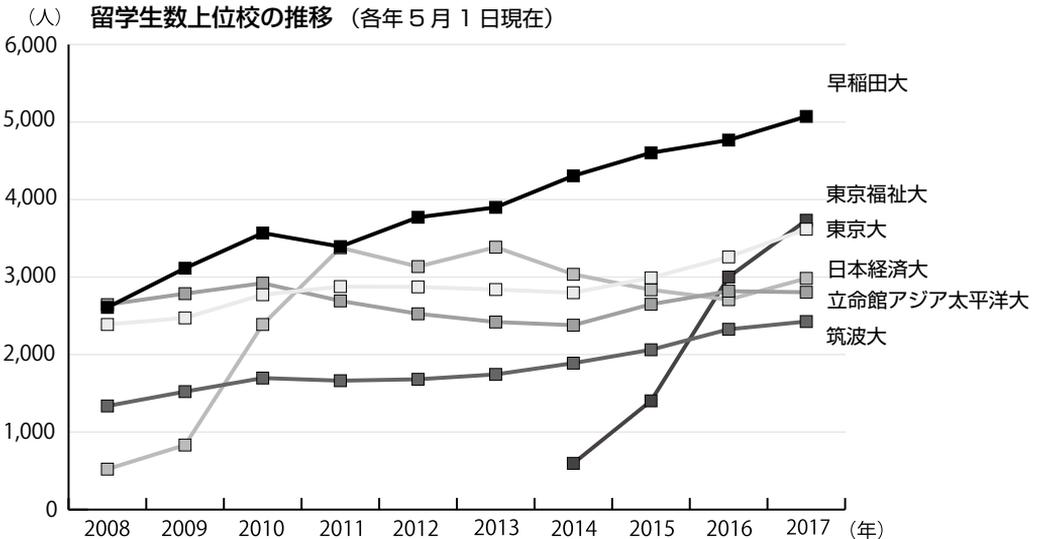
▶ 外国人留学生受入数の多い大学 (2017年5月1日現在)

2009年以来留学生数でトップを走る早稲田は、前年比305人増で5,000人を突破した。その他、増加数が多かったのは東京福祉大学(733人)、東京大学(358)、東洋大学(326)、立命館大学(281)、日本経済大学(275)など。

学校名	留学生数	学校名	留学生数
①早稲田大学	5,072人 (10%)	⑩広島大学	1,442人 (9%)
②東京福祉大学	3,733人 (53%)	⑪城西国際大学	1,438人 (18%)
③東京大学	3,618人 (14%)	⑫東京工業大学	1,432人 (14%)
④日本経済大学	2,983人 (70%)	⑬同志社大学	1,358人 (5%)
⑤立命館アジア太平洋大学	2,804人 (49%)	⑭上智大学	1,307人 (9%)
⑥筑波大学	2,426人 (14%)	⑮日本ウェルネススポーツ大学	1,275人 (68%)
⑦大阪大学	2,273人 (10%)	⑯日本大学	1,220人 (2%)
⑧九州大学	2,201人 (11%)	⑰神戸大学	1,201人 (7%)
⑨立命館大学	2,141人 (6%)	⑱拓殖大学	1,055人 (10%)
⑩京都大学	2,134人 (9%)	⑲大阪産業大学	1,005人 (12%)
⑪東北大学	2,025人 (12%)	⑳東洋大学	984人 (3%)
⑫北海道大学	1,851人 (10%)	㉑関西大学	940人 (3%)
⑬名古屋大学	1,805人 (11%)	㉒法政大学	931人 (3%)
⑭慶應義塾大学	1,677人 (5%)	㉓横浜国立大学	927人 (8%)
⑮明治大学	1,456人 (4%)	㉔東海大学	900人 (3%)

※留学生数は留学生別科等を含んだ数。

( ) 内は各大学公開情報等から編集部が算出した在籍学生数に占める留学生の予想される割合。



## 日本語教育機関（日本語学校）における留学生受入れ状況

2016年度調査で初めて中国を抜いて1位に立ったベトナムだが、入国審査の厳格化の影響を受けてかその勢いにブレーキがかかった印象だ。ただし中国との差はわずかで、構成比は中国とともに30%以上を占めている。一方で前年それまでの快進撃から一転して減少に転じたネパールだが、今回調査では再び増加。スリランカは前年比1,516人増と、中国に次いで増加幅が大きい。またミャンマーは初めて2,000人台に到達し、台湾を抜きさり5年ぶりに2,000人台を回復した韓国と並んだ。

それぞれの国籍の日本語学校生が自国の留学生に占める割合を見ると、スリランカが最も高く52%、次にベトナム47%、ミャンマー46%と続く。一方で、韓国、バングラデシュは10%台と、日本語学校生の割合が低い。

### ▶ 出身国（地域）別日本語教育機関在籍留学生数（2017年5月現在）

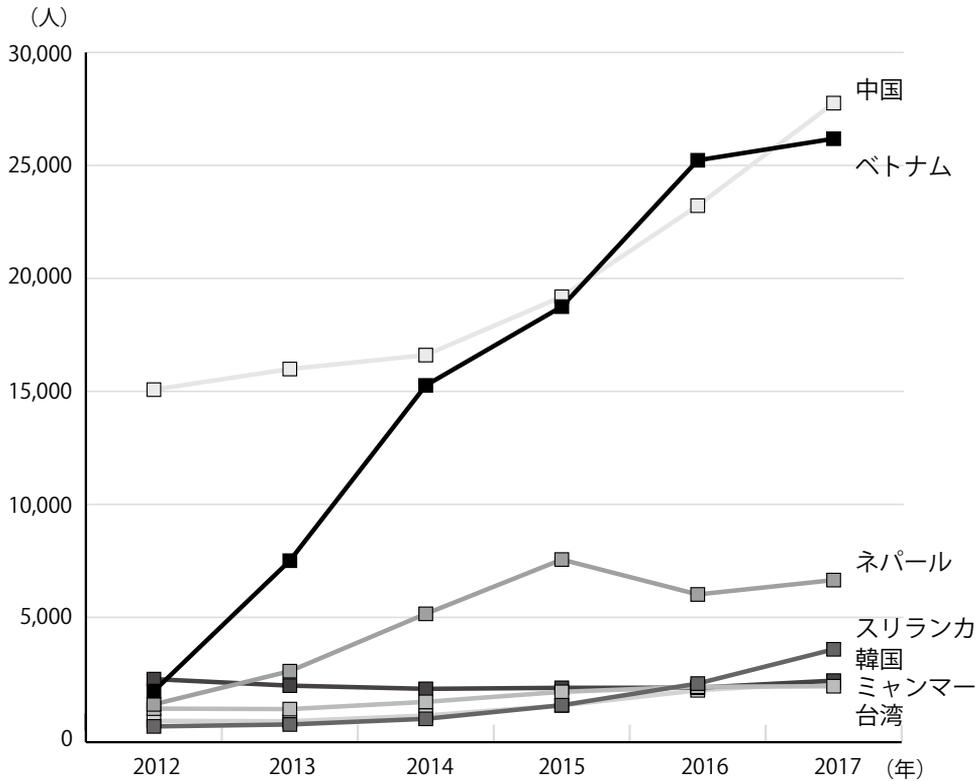
国・地域	留学生数（人）	構成比（%）	前年比（人）	出身国別留学生に占める割合
中国	27,758	35.3	4,537	24%
ベトナム	26,182	33.3	954	47%
ネパール	6,650	8.5	635	31%
スリランカ	3,587	4.6	1,516	52%
韓国	2,202	2.8	316	12%
ミャンマー	2,130	2.7	358	46%
台湾	1,953	2.5	24	23%
インドネシア	1,260	1.6	300	21%
フィリピン	892	1.1	339	32%
バングラデシュ	829	1.1	252	17%
その他	5,215	6.6	1,262	—
計	78,658	100.0	10,493	—

### ▶ 日本語教育機関在籍留学生数上位国（地域）の年別学生数（各年5月1日現在）

	2012（年）	2013	2014	2015	2016	2017
中国	15,079	15,991	16,607	19,190	23,221	27,758
ベトナム	1,735	7,509	15,265	18,751	25,228	26,182
ネパール	1,150	2,619	5,157	7,559	6,015	6,650
スリランカ	175	2,60	5,10	1,112	2,071	3,587
韓国	2,268	1,979	1,837	1,882	1,886	2,202
ミャンマー	418	405	655	1,103	1,772	2,130
台湾	962	941	1,260	1,704	1,929	1,953

単位（人）

▶ 日本語教育機関在籍留学生数上位国（地域）の推移（各年5月1日現在）



▶ 出身地域別日本語教育機関在籍留学生数（2017年5月現在）

地域名	留学生数（人）	構成比（%）	前年比（人）	増減率（%）
アジア	75,939	96.5	9,868	14.9
欧州	1,984	2.5	464	30.5
北米	322	0.4	55	20.6
中南米	139	0.2	42	43.3
アフリカ	122	0.2	47	62.7
中近東	80	0.1	▲ 7	▲ 8.0
大洋州	71	0.1	26	57.8
その他（無国籍）	1	0.0	▲ 2	▲ 66.7
計	78,658人	100.0%	10,493人	15.4%

日本語学校生の出身地域においてもアジアが圧倒的多数を占めるが、中近東を除いた各地域の前年度比増加率は、アジアのそれ以上に高くなっている。

## 奨学団体に聞く

# 公益財団法人 榎山奨学財団

優れた留学生たちが日本で安心して勉学に励めるよう、経済面のみならず独自のコミュニケーションにより、時に学生の精神面をも支える奨学団体。その魅力をご紹介する本コーナー、第5回目となる今回は、昨年（2017年）創設40周年を迎えた榎山奨学財団にお邪魔をして、同財団理事で選考委員の波多野優子氏と理事で事務局長の内川宗子氏にお話をうかがった。

<概略>（公財）榎山奨学財団は、1977年にオンワードグループの創業者である榎山純三氏が私財を投じて設立した財団である。榎山氏自身が叶えることの出来なかった大学での学びという夢を、未来ある若者たちに託したいと1977年に設立した。昨年40周年を迎えた同財団が支援した奨学生数は計2,590人となり、OBは日本及び世界各地で活躍をしている。

東京都中央区日本橋三丁目10番5号 オンワードパークビルディング  
Tel 03-4512-1062 URL <http://www.kashiyama-sf.com>

### 主な事業

#### ■奨学金事業

##### ①大学学部生奨学金

<対象者>指定40大学と1都市の学部生で在学学長の推薦を受けた者

<奨学金>月額4万円

<給付期間>1年から在学する大学の正規の最短終業年限まで

<指定大学>現行40大学と1都市（創設者出身地）

##### ②大学院留学生奨学金

<対象者>指定7大学の大学院生で、日本以外の国籍を有し、アジア・太平洋諸国・地域から来日し、指定大学の大学院に在学する者

<奨学金>月額12万円

<給付期間>原則として2年以内

#### ■榎山純三賞

財団創立30周年を記念して2006年に新設された賞。国際的視野にたった社会有益な図書を表彰し、その業績を広く世に知らしめることを通じて、国際社会の情勢を的確に捉え、良書を少しでも多くの人に読んでいただくことを目的としている。

#### ■榎山奨学会館（東京・世田谷区）

多目的ホール、研修室、学習室、留学生宿舎を備える

## 財団創設の目的とは

—— 創設者の榎山純三さんは、どのような思いでこの事業を始められたのでしょうか。

**波多野：** 榎山純三は84歳で他界しているのですが、この奨学金事業は76歳の時、1977年に日本人学生を対象にスタートしました。純三は三人兄弟の次男坊だったのですが、兄と弟が大学まで進学している中で、純三の頃は家が傾きまして、小学校の卒業式にも出られず東京に来て就職したわけです。本人は勉強がよく出来たのに進学出来なかったということで、悔しい思いをもっていたそうです。それで、そういう思いをする若者を1人でもなくしたいということで、この奨学金事業を始めたということです。

—— では創設者は、奨学会を通じ長年の思いを実行に移され、若い学生たちと交わりを持ち喜ばれていたのではないのでしょうか。

**内川：** 純三さんが理事長だった頃の学生が今はもうすぐ60歳ということで、そろそろ定年を迎えられる方もいらっしゃいます。純三さんは奨学生に対して、必ずしも立派になれということ言うのではなく、4年間しっかり勉強して、社会に出て働いて欲しいという思いを持っていたとうかがっています。

**波多野：** 若者たちが学問を学んで社会に出て仕事をする中で、社会貢献をするように、ということが目的だったようです。

## 大学学部生奨学金

—— 当初は留学生を含まず、日本人学生

のみを対象に始められたんですね。

**波多野：** 1977年のスタートからしばらくは日本人の大学学部生を対象に奨学金の支給を開始しました。

—— 日本人向けの給付型奨学金というのは非常に少ないですね。

**波多野：** 日本人の場合、だいたい貸与型が多いのではないのでしょうか。

**内川：** 大学院生向けはあっても、学部生の給付型というのはとても少ないですね。しかもうちは大学に入学してから卒業するまでの4年間支給しますから、かなり珍しいのではないかと思います。

—— 現在の支給人数と支給額を教えてください。

**内川：** 一学年41名ですから、4学年で164名に月額4万円（年間48万円）を支給しています。支給開始は必ず1年生からで学年途中からの支給はできません。病気などの理由でやめられる方も年間1、2名はいらっしゃるんですが、基本的にはみなさんに4年間支給します。ただし成績が悪いといった状態が続く学生については、支給を停止することもあります。

—— 1年ごとに成績をチェックされて審査されるわけですね。

**内川：** 年度毎に選考委員の先生方が成績を見ていますので、思わしくない学生には注意をしています。また、大学の先生方からも報告書をいただいていますので、この状態では4年間で卒業できそうにないという学生には、早めに注意するようにしています。

—— 指定大学制ということですが、北海



内川さん

道から琉球大まで、全国をカバーされていますね。各大学の人数は決まっているのでしょうか。

**波多野：** 指定大学は40大学で各大学1名ということになっています。設立当初は大学の数も少なく、一つの大学から複数名ということもあったのですが、公益財団法人の認定をいただく際、公益性の点で複数のところと1人のところがあってはならないというご指導をいただきました。それで、大学の数を増やし、各大学1名ということにしました。

—— 学部奨学生については日本人でないといけなんでしょうか。

**内川：** 指定大学の学部生で大学の推薦を受けた方であれば国籍は問いません。現在1名だけですが留学生の方もいます。

—— 大学が奨学生を選考する際、成績だけではなく学生の経済状況なども見ているの

でしょうか。

**内川：** その点は考慮された上で選考されていると思います。ただし、学部生向けの奨学金は高額ではないため、あまりにも経済的に困窮されている方だと、途中で勉学を続けるのが難しくなってしまうということになりかねません。学校には1年、2年通ったけれど、それ以上続けるのは難しい、卒業できなくなる可能性のある学生さんについては引受けられないというお話は、大学への説明会の時などに行っています。創設者の榎山純三は、若者が大学で学び卒業して社会に出て働いてもらうということを奨学金事業の目標としていましたので、それが叫びず途中で挫折或は放棄せざるを得なくなってしまうのでは、奨学金が無駄になってしまうということにもなります。ですからこちらで援助をすることによってアルバイトを減らして、その分勉強に集中できるような、そういう方を選んで欲しいと大学にはお願いしています。

### 留学生向けの奨学金

—— では1983年に開始された留学生向けの奨学金事業について教えてください。

**波多野：** 留学生向けの奨学金については当時の理事長の榎山軌四夫の提案でスタートしました。対象は大学院生で、現在7校の指定校から各1名、合計7名を採用して月額12万円（年間144万円）を支給しています。給付期間は2年間ですので、合計14名の奨学生がいます。

**内川：** 採用年ですが、修士は1年生から

2年間、博士課程は学年は問いませんが、給付期間はやはり2年間のみです。指定校は関東5大学と関西の2大学ですが、大学は開始時と変わっていません。

—— 原則2年間ということですが、やはり1年で支給を打ち切るケースもあるわけですね。

**波多野：** 頻繁に研究テーマを変える、会合にいつも1時間以上遅刻してくるなどといった場合ですね。なんど注意しても改善されない場合、1年で支給を打ち切ることあります。研究テーマの変更については、きちんと説明できる変え方であれば構わないのですが、ころころ変える人は、学位取得を真剣に考えているのかどうか心配になります。ただし幸いこれまでそういった方はほとんどいませんでした。

**内川：** どの国も豊かになって、最近は半分遊びに来ているような留学生もいますから、そういった学生が採用されてしまうと、注意をする機会が増える可能性はありますね。

—— 国籍や年齢についてはいかがですか。

**内川：** 中国の方が多いですね。その次にモンゴルの方です。

**波多野：** 採用時の年齢制限を修士は30歳未満、博士は35歳未満としていますので、それ以上の方はいません。学部を出たばかりの23、24歳の方から、30歳近い方もいらっしゃいます。

## 交流行事について

—— 奨学生の交流行事について教えてください



波多野さん

ださい。

**内川：** まず奨学生全体を対象とした全国会合というのを年に一度行っています。対象の41大学の奨学生全てを一同に集めての交流会です。この会合には留学生（大学院生）も来ますので、参加者は200名ほどになります。ここでは学年の違う学生同士はもちろん、普段会うことのない役員と選考委員の方々を紹介し交流をしてもらっています。

**波多野：** その他に新入生向けのオリエンテーション、2年生向けの交流会というのもありますから、各学年、最低年に2回は交流行事があることになります

**内川：** そうした中で仲良くなって、OB同士で結婚した人も今まで7組いますね。

—— 留学生向けの会合というものもあるのでしょうか。

**内川：** 留学生は、毎年夏休みに一泊二日の

国内旅行を行っています。

—— 会合の出席というのは義務なのでしょうか。

**波多野：** 強制ではありませんが、半分義務ですね（笑）。

**内川：** ですから、交流会の開催日については土日にするといったように配慮はしています。ただどうしてもダメだという時は、先生にかけあってみなさいということになってしまうのですが（笑）。

—— 会合以外で、留学生とスタッフの方が交流を持つ機会はあるのでしょうか。

**内川：** 留学生への奨学金支給は振込みではなくて手渡しで行っていますから、2か月に一回は必ずみなさんと会って話す機会を持っています。実は開始当初は振込みだったのですが、それですと2年間全く会わないという人もいて、報告書は上がってくるけれど、どういう人かあまりよくわからないということがありました。

**波多野：** 奨学金の手渡しは、東京は財団の奨学会館で、大阪は私たちが出向いて会場を借りて行っています。その時に研究の状況や、同僚との人間関係の悩みや、母国の様子など、いろいろなことを聞いたり、それぞれの近況を共有するようにしています。

**内川：** 東京10人、大阪4人ですね。その時に近況報告を日本語の文章でいただいているのですが、もらう度に日本語力が上がっていくのを見てみると、感心してしまうと言いますか、嬉しくなってしまうことはありますね。そういう繋がりは大事にしたいなと思ってやっています。

—— 留学生それぞれの顔が見えて、繋がりも深いものになりますね。

**内川：** 先ほども20年前のOB2人が東京での学会のついでに訪ねて来てくれて、一緒にお昼を食べてきたところです。

**波多野：** 中国と韓国のOBで、大学は慶応と大阪で全然違うのに、なぜか2人がとても仲良しになりまして、今日も二人で来てくれたんです。

**内川：** そういった留学生同士の交流というのはけっこうあるみたいですね。

留学生との交流ということと言えますと、以前、初代理事長が所有していた牧場が北海道にあったのですが、夏休みにそこにスタッフと留学生が一緒に出かけて、合宿のようなことを行っていました。牧場のスタッフと一緒に農作業をしたり、様々なことを語り合ったり。男女それぞれ1年置きに行くのですが、女性の時は私が、男性の時は男性スタッフが理事長と一緒に同行していましたから、参加した留学生達とは帰国後も連絡を取り合うなど、深い関係ができました。

**波多野：** 牧場は純三の趣味で持っていたものですが、今は閉場になってしまい、この北海道旅行もなくなってしまいました。

—— 櫻山純三さんは金銭面の援助だけでなく、そういった人と人の繋がりを作る、ということも考えていらっしまったのでしょうかね。

それでは、支給を終えた元奨学生との繋がりについて、どのようなことをされているのか教えていただけますか。

**波多野：** 年に一回、OB会を関東と関西、

それぞれで行っています。

**内川：** これについて、立ち上げは財団で声をかけて始めましたが運営はOBがやるような形でやっています。ただ、今は個人情報の保護について厳しい時代ですから、その管理面については全て財団のほうでやるようにしています。

**波多野：** ほかに財団公式ではありませんが、OBたちはFacebookやLINEなどを使って自主的に交流をしているようです。

**内川：** 留学生もOB会には参加できるのですが、あまり来てませんね。やはり日本人が大多数ですから、在学中に特別深い繋がりでもない、気が進まないのかも知れません。

—— 卒業後帰国する方が多いからということもあるのでしょうか？

**波多野：** そうですね。ただ最近では留学生の半数以上は日本国内で就職していますね。

**内川：** 日本で就職する人は増えましたが、やはり何年かすると帰国する方も多いようです。留学生の場合、日本の本社である程度仕事を覚えたら、母国の現地法人で活躍してもらおうという流れのようです。

—— 創設者がはじめたこの事業に対して担っている方々も責任感と満足感を持って実施されている印象を受けましたが。

**波多野：** そうですね。私たちにとってもこういう形で奨学生の皆さんと出会えてよいご縁ができるというのは素晴らしいことだと思っています。私自身、いつも出会いに感謝しています。

**内川：** 私も同じ気持ちです。ただ今は留学生に東南アジアの方がいないのが、個人的に



留学生研修旅行の様子（2014年、熊本城）

は少し寂しいところですね。

**波多野：** 以前はインドネシアとかタイの方などもいらっしゃいましたが、今はいませんね。

**内川：** それに、留学生の出身地域を環太平洋としているので、南米の方でもいいのですが、その地域の方たちはあまりいませんね。

**波多野：** 以前、10万円だけをお渡しする奨学金プログラムを年2回していたのですが、その時は本当に様々な国の方がいらっしゃいました。しかし、授与式に無断で来ない方が増えてくるようになって、中止してしまったのですが、今は10万円の価値が下がって、それを研究に役立てるといっても難しい時代なのかもしれません。

**内川：** 留学生の支給対象者は大学院生ですから、やはりそこまで行ける人というのは、ある程度、生活には余裕がある人たちなのかなと思いますね。



榎山奨学会館

—— 卒業生の追跡調査というのは行っているのでしょうか。

**波多野：** その部分は十分には行えていません。やはりもう少しWEB環境というのを今の時代に対応できるように構築していきたいと思っているのですが、やっと追いついた時には技術がまた先に進んでいきますので、そこについて行くのは大変だというのが現状です。Facebookのように、一方通行ではないものを作りたいとは思いますが、インターネットの危険な側面も考慮しなければならず、なかなか難しいのが現状です。現在はホームページを変えて、OBたちが気軽にアクセスできるようなものに出来ないかということで検討をしています。

—— 長く奨学財団の仕事に係わってこれ、奨学生たちの変化は感じられますか。

**内川：** 昔はもっと密接にいろんなことを話し合うことが出来たのですが、今は意外とドライといますか、人と人との繋がりというのが薄くなってきているように感じています。一方でここで知り合い仲良くなる留学生は、その後もけっこうしっかり繋がっているようです。ただそこに財団が入

るといことはあまりないのが残念なところですね。昔の留学生で、今も日本に住んでいる方などは、お会いすると「あー久しぶり」ということで昔話に花が咲くのですが、最近はそういうことはありませんね。自分が奨学生の時だけの関係という感じになってきています。

## 留学生宿舎事業

—— 留学生宿舎も運営されているとうかがったのですが。

**内川：** 東京・世田谷にある財団の奨学会館の一部を宿舎として、5名の学生に貸しています。そこは全員留学生で大学院生です。これは奨学金とは別で、宿舎についてはほぼ無料、一月1万円だけをネット代や水道光熱費などの必要経費ということでいただいています。

—— 募集はどのように行っていますか？

**内川：** これも指定校からの推薦です。入居期間については原則1年で、延長したいという希望があればもう一年、最大二年間居られます。

—— やはり中国からの学生が多いのでしょうか。

**波多野：** 現在はそうですね。フィリピンの方もいらっしゃいます。1986年から宿舎の方は運営していますが、全員が欧米人だったこともありましたね。

**内川：** 去年まではスリランカの方がいらっしゃいました。私どもとしては個人に貸しているのではなくて、大学に貸しています

ので、こちらで国籍を選ぶということはありません。

—— 設備やメンテナンスについて教えてください。

**内川：** バス、トイレ付きで、部屋の中以外の清掃は全て管理人が行います。寝具や机などは全てセットしてあり、シーツや枕カバーなどは無料で交換しています。学生によって2日で替えて欲しいとか、5日で替えて欲しいとか、希望はそれぞれですが、所定の場所に使ったものを出しておいてもらえれば、管理人が新しいものに交換します。

—— 行事などへの参加は奨学生と同様なのでしょうか。

**波多野：** 行事への参加はほかの奨学生と一緒に、研修旅行にも、だいたいみなさん参加してくれますね。

**内川：** 宿舎については、形が変わった奨学金ということでやっておりますので、私たちがやるイベントがあるときは声をかけて、時間があれば来てもらっています。3月初旬に卒業を祝う会というのをやるのですが、そこへも参加していただけます。

—— みなさんやはり2年間はいらっやいますか？

**波多野：** 大学の都合で出てもらうということはあります。入居中に高額の奨学金が決まったりした場合、その上さらに宿舎も無料ということだと、これは不公平になるからということですね。たとえ本人が継続を希望していても、大学のほうで入れ替えますということで、泣きながら出て行く方もいらっやいました。残念ですが、こちらは何も言

えない契約になっていますので。

## 榎山純三賞

—— 最後に榎山純三賞について教えてください。賞はアジア理解を深めるということだと思いますが、中近東、インドやモンゴルに関する本も受賞していますね。

**内川：** もともとは30周年記念行事として何かを始めようということで作られた賞なんです。推薦は自薦でも他薦でも出版社推薦でもかまいません。

**波多野：** 論文が本になって出版されたものの中から推薦していただき、選考するという形をとっています。著書の方の中には受賞された後に有名になられた先生もいらっやいますね。

—— 広報はどのようにされているのでしょうか。

**波多野：** 良い本を書いてらっやる方がいたら推薦して欲しいと、出版社や大学などを訪ねてお願いして歩く、イベントなどに集まっていたいただいたメディアの方などにPRするなどしています。

**内川：** 今はこの事業も軌道に乗ったのではないのでしょうか。

**波多野：** 毎年推薦を出してくださる方もいますね。受賞された著者の方にはオンワードの高級スーツと100万円を賞品として差し上げています。

—— これからも奨学会の素晴らしい事業を長きにわたって継続していただければと思います。本日はありがとうございました。

留学生  
インタビュー

## だから日本に留学しました！

ABK 学館日本語学校 1年半コース

Ms. PALANUSETTAPA PIANGMANEE (ルン) さん ~タイ  
Ms. SONGSERMSAWAD PICHAYA (モーミン) さん

—— 日本に興味を持ったきっかけを教えてください。

モーミン： 私は小学校6年生の時、兄が読んでいた日本のマンガを読んだことがきっかけです。

ルン： 私は中学生の時モーミンさんと同じ学校になって、彼女からマンガを借りてファンになりました。

—— 日本のマンガの魅力って何ですか？

モーミン： キャラクターですね。日本マンガのキャラクターは本当に存在する人のようにいろいろな面を持っています。だから魅力的で親しみが湧くんです。

ルン： 内容も良いですね。ファンタジーとかスポーツとか、様々なテーマ、分野の作品が揃っていて、自分がその時興味のあるものを選んで読めます。ですから登場人物と共感できるんです。

—— 二人とも泰日工業大学 (TNI) の出身ですね。

モーミン： 高校でも日本語を学んで、N4を取りましたから、大学で止めてしまうのはもったいないと思いました。ただその時は好きなゲームの作り方のことも学んでみたいと



ルンさん (左) とモーミンさん

思っていたので、日本語とプログラミングが同時に学べる TNI を選びました。

ルン： 私も日本語は続けたいけどグラフィックデザインへの興味も強かったので、モーミンさんと同じ TNI の情報学部マルチメディアコースに入りました。

モーミン： ただ実際プログラミングを勉強してみると、コードがとても難しく、「ああ、これは自分には向いていない」と思いましたね (笑)

—— 日本留学を決めたのはいつ頃ですか？

モーミン： 大学に入る時にはいつか日本に留学したいと思っていました。

ルン： 私は大学生になって、日本語をもっと伸ばしたいと思っていたので、機会があれば留学したいと思っていました。はっきり決めたのは、日本に留学する友人がいたからで

す。彼女に聞いた通り私たちが大学の事務局に相談して、日本のいくつかの日本語学校を紹介してもらいました。

**モーミン：** 学校を ABK に決めたのは、先に留学したその友達が ABK に行ったからです（笑）。

**ルン：** 東京に住みたかったのも ABK を選んだ大きな理由です。

—— **東京のどこが気に入りましたか？**

**モーミン：** 街が綺麗で、交通が便利なところ。どこでも電車で行けますよね。それから、私はアニメやマンガが好きなので、その関連のイベントがたくさんあって、いつでも行けるというのが幸せなところ。

**ルン：** 東京は大都市なのに安全な街だと思います。私は K-POP ファンなのですが（笑）、東京では K-POP のライブもたくさん見られるのでそれも魅力です。それから日本に来てファッションにすごく興味を持つようになりました。タイでは、服はめったに買わなかったのですが、日本に住んでいると日本のお洒落な女性に刺激されてファッションへの興味がすごく高まり、洋服を選ぶのが楽しくなっています。

—— **では生活で不便を感じることや嫌な目に遭ったことは？**

**ルン：** タイに比べて物価が高いところですね。タイの食材が簡単に手に入らないのも不便ですが、それは仕方がないです。それから、私はなぜか歩いている時に、背後からオジサンに押しのけられるんです。特に混んでる所でもないのに…。

—— **一度ならともかく、何度もあるというのは不思議ですね…。**

**モーミン：** ルンさんは小さいからかな（笑）。私はこちらのタイ料理店の味がタイと違うのが残念です。タイ料理屋さんはたくさんあるのですが、どこもタイとは味が違うんです。タイのほうが味が濃くて美味しいです。

—— **普段の食事はどうしていますか？**

**モーミン：** 自炊が多いですね。簡単なものですが、タイ料理のほかに日本料理や韓国料理をレシピを見ながら作ってます。それから、アルバイト先がタイレストランなので、バイトがある時は賄いがあります。

—— **お二人ともご家族からの仕送りがあるようですが、アルバイトは必要でしたか？**

**ルン：** 仕送りで大丈夫でしたが、遊びに出かけたり、欲しいモノを買ったりするためのお金はアルバイトで稼ぎました。

**モーミン：** 本当は月に4万円分ほど働ければと思っていたのですが、お店が人手不足で、結局その倍くらい働くことになりました。お金には余裕ができましたが、疲れましたね（笑）

—— **生活費以外でどんなことにお金を使いましたか？**

**ルン：** ガンプラ（ガンダムのプラモデル）や缶バッジなどです。それから K-POP のコンサートのチケットやコンサートグッズにお金を使いました。

**モーミン：** 私はアニメのコラボカフェにもよく行きます。ドリンクを注文するとアニメのキャラクターが描かれたコースターをもらえるのですが、缶バッジ同様一度で自分の好きなキャラクターのものが出るとは限らないので、何杯も注文しないとイケなくて（笑）。

—— **お二人とも N2 を取られたそうですが ABK 学館で学んでみていかがでしたか？**

**モーミン：** タイ人は漢字が苦手ですから、どうしてもそれを後回しにしてしまう傾向があります。でも日本ではそういうわけにはいかず、漢字にも集中できましたから、以前のような苦手意識はなくなりました。それから発表の時間が多いので、プレゼンテーションの仕方が身に付いたと思います。クラスメートも楽しい人が多くて、みんなとよくいろいろな食べ放題に行きました（笑）。

**ルン：** タイでの日本語学習は文法にかける時間が多いのですが、ABKでは読解に聴解、会話もシャドーイングなど様々な手法を使って教えてくれるので、とても新鮮で楽しく学ぶことが出来ました。私は特に作文に苦手意識があったのですが、どのように文章を組立てて行くのかということを先生が丁寧に教えてくれるので、少し苦手意識が克服できたように思います。ただ、まだ言葉がすぐに出てこないことが多いので、仕事が始まったら大変じゃないかなと少し心配しています。

—— お二人とも同じ会社に就職が決まったそうですが、日本での就職は来日当初から決めていましたか？

**モーミン：** 私はもともと日本で就職をするつもりでしたが、クラスメートのほとんどが進学するという中にいたので、その影響で自分も進学して好きな絵を学んでみようと思いました。ただ、専門学校を探している過程で、本当に自分は将来絵を描くことを仕事にできるのかと考えたら、それは無理だと思ったんです。やっぱり絵は趣味で楽しんで描くのが一番と、気持ちを就職に切り替えました。

**ルン：** 私は最初、母の希望もあって日本語だけ学んで帰るつもりでいたのですが、モー

ミンさんも日本に残るということだったので、自分も日本に残ろうと決めました。ただ経済的な面で進学は無理だったので、残るのなら就職しないと決めました。それで、大学で学んだキャラクターデザインの仕事を探したのですが、私より上手な日本人は大勢いて、自分は彼らには勝てないなあと、その分野にはこだわらないことにしました。

—— 就活はどのようにしましたか？

**モーミン：** 学校からいくつかの企業を紹介してもらい試験を受けました。その中で合格したのが大阪の工場用送風機などを作っているメーカーです。そこに決めたのは、既にTNIとABKのタイ人の先輩が働いていて、安心だったから。それに面接を兼ねた会社見学の時、社内がとても良い雰囲気、みんな楽しく働いているように感じましたから。

—— 1年半の留学生活はどうでしたか？

**ルン：** あっという間でした。

**モーミン：** 私もいろいろな経験が出来て楽しかったのでもっと短く感じました。学校は日本語以外のサポートも厚くて履歴書の書き方や面接でのマナーといった就職活動の仕方など、タイにはないことを先生が丁寧に教えてくれたので、無事就職できました。

**ルン：** 日本語学校に通ったことで、日本語力はもちろんですが、日本の文化や習慣を学び、日本での生活に徐々に慣れていくことができました。社会に出たらまたいろいろ学ばないといけないとは思いますが、日本語学校に通ったおかげで、あまり不安なく、新しい生活に入っていけるような気がします。

—— ありがとうございます。新しいステージでも楽しんでがんばってください。

バンコクの泰日工業大学で活躍するスタッフ&先生によるリレーエッセイ

# 泰日工業大学 (TNI) 奮闘記

## ②⑦ 日系ハーフの学生と大学の未来

池田 隆

泰日工業大学は日本との関係が深い大学である。

そのため、時々、担当するクラスの中に日系ハーフの学生を見かける。ハーフの中には、中国や台湾の親を持つ学生もいるが、多くを占めるのは、やはり日系ハーフの学生である。

日系ハーフの人数は、実際にデータがある訳ではないため断言できないが、筆者の感覚では、大学全体では30～40人程度ではないかと思われる。

さて、今回は、日系ハーフの学生3人に話を聞くとともに、大学に多少の提言を考えてみた。3人への質問は次の通りである。

- ① 日本の大学ではなく、タイの大学を選んだ理由
- ② TNIを選んだ理由
- ③ TNIの印象（入学前）
- ④ TNIの印象（入学後）
- ⑤ ハーフでよかったこと
- ⑥ ハーフで困ったこと
- ⑦ 家で使う言葉
- ⑧ 将来選ぶ国籍
- ⑨ TNIが無かったらどこに入学したか
- ⑩ TNIに日系ハーフの学生同士が情報交換や交流をする場があった方がいいか

1人目は、サスイウイモン・ウォンインさん、経営学部会計学科3年生。

① 日本語があまり分からないため（N4レベル）。

② 会計学と日本語が同時に学べるため。

③ 小さいが有名。特にタイの日系企業関係者には良く知られている。

④ とても良い。卒業生の就職率が100%なのですごい。日本への留学の機会もたくさんある。

⑤ 日本に行く機会がたくさんある。

⑥ ハーフと言うと、日本語が流暢に話せると思われることが少し心苦しい。

⑦ タイ語。母親は日本人だが、在タイ30年のため。

⑧ タイ。しかし、日本航空のキャビンアテンダントになりたい。

⑨ アサンプション大学、スィーナカリンウィロート大学、カセサート大学（どこも名門大学）。

⑩ あったほうがいい。情報交換をする場があれば安心。



2人目は、鈴木勇良（いさら）さん、工学部経営工学科2年生。

① タイ語の方が得意なため（日本語は会話はネイティブレベルだが、漢字が苦手）。



② 父方の祖母の決定（実は名門大学のカセサート大学も合格したが日本人である祖母の決定に従った）。

③ 若い人たちには有名。

④ レベルの高い良い大学。

⑤ 2か国語が話せる。

⑥ 特になし。

⑦ タイ語。

⑧ 日本。仕事は日系企業、勤務地は日本・タイ以外でもよい。

⑨ カセサート大学。

⑩ 特に必要性は感じない。

3人目は、前川友紀（ともき）ギラティさん、情報学部マルチメディア技術学科2年生、N2レベル。



① 日本の大学は書類の不備で行けなくなってしまったため。（TNIは私立大学のため、入学試験の回数が複数回ある。）

② 日系企業で働く両親の勧めによる。

③ アニメ作りの勉強ができる。大きい大学だと思っていた。

④ 実際は小さいが良い大学。アニメ作りに関する知識が全くない学生に分かりやすく、ハイレベルな内容まで教えてくれる。

⑤ 日本語ができること。

⑥ 小さいとき、タイ語が分からなくていじめられたこと。

⑦ 両方使う。

⑧ タイ。大学院は日本に行きたい。

⑨ バンコク大学、ランシット大学（有名私立大学。アニメの勉強がしたい）

⑩ あったほうがいい。仲間が集まれる所が欲しい。情報交換ができる。

学生達の答えから見えてくるものはどのようなものであろうか。

（1）「得意な言語はタイ語である。」

日本語はかなりできるものの、家族との会話はタイ語を使い、また、タイでの生活も長いこともあり、自信のある言語はタイ語である。

（2）「日本に関心のある人にとって、TNIの知名度はとても高い」

タイの社会では、国立の名門大学に比べると、知名度は劣っていると言わざるを得ない。しかし、ハーフの学生は家族が日系企業との繋がりがあり、そのネットワークからの情報が彼らの大学選択に大きな影響を与えている。

（3）「将来選択する国籍はタイ2名に対して、日本1名である。」

これに関して、筆者は全員が日本国籍を選ぶのではないかと予想していた。しかし、

彼等の生活基盤がタイにあり、タイ人としてのアイデンティティーが強いため、タイ国籍を選ぶ学生が多かった。

(4)「日系ハーフの情報交換の場があった方が良いと答えた学生2名に対して、不必要1名である。」

この結果は③の結果と関係していると考えられる。タイ国籍を選ぶ2名は必要と答えているが、日本国籍を選ぶ鈴木さんは不必要と答えている。鈴木さんは日本に戻るため、ハーフの学生同士で情報交換をしたり、集まろうという期待は高くはないと考えられる。

最後に、TNIにおける、日系ハーフの学生の重要性について考えてみたいと思う。

彼等の友達に聞いてみると、「日本語が分からない時、何でも教えてくれる。」とか、「日本の文化について、分かりやすく説明してくれる。」といった答えが返ってくる。

タイ人学生にとってハーフの学生は、日本語や日本文化への身近な案内人である。教師が教えるのとは異なり、日常の交友の中から自然に吸収することが可能である。「日本語は難しい。」と身構えがちな学生にとっても、苦手意識のハードルが低くなり、日本語に親しみを覚えるようになる。

日系ハーフの学生は、タイ人学生に大きな影響を与える存在である。

TNIにとっては宝とも言える存在である。

タイでも、少子化問題が囁かれている。徐々にではあるが、大学間の競争も激しくなっている。その状況において、生き残るために

は、大学の特色を打ち出し、他大学との違いをはっきりさせることが重要となる。

その戦略はいくつかの方向性があるが、今以上に日本語力の高い人材の輩出は大いなるセールスポイントである。その際に重要な役割を果たすのは、日系ハーフの学生達であろう。彼等は優秀な日タイ話者であり、かつ、タイ人学生の日本語力の底上げにも効果を発揮する。日系ハーフの学生にはどんどん入学してもらいたい。

日系ハーフを多数呼び込むためには、日系ハーフの学生たちの情報交換の場を提供する以外に、学費の一部免除または、日系ハーフのための枠の奨学金など、彼等を優遇することも考えても良いのではないか。

その様な体制が整えば、ただ単に「生き残る」というだけではなく、タイ屈指の「特徴ある大学」への道がひらけてくると言っても過言ではない。

昨年、泰日工業大学は10周年を迎えた。そして、今後10年はどのように発展して行くのであろうか。更にその10年後はどのような姿に変貌していることだろうか。広大なキャンパスを構える名門大学であらうか。もしもそうなれば素晴らしい。しかし、筆者はそのような高望みは抱いていない。20年後も小さいまでも構わない。将来、この3人を含む卒業生達が親になり、自分達の子供に泰日工業大学を勧めてくれれば、それで十分素晴らしいこと、そして、大変幸せなことだと、筆者は信じている。

池田隆(いけだたかし) 泰日工業大学(TNI)教養学部日本語講師。2003年青年海外協力隊員として、タイ国ウボンラチャタニ大学に赴任。その後、タイ南部タクシン大学を経て、現職。

# 新星学寮の建替えと募金のお願い

**新**星学寮は、穂積五一先生が主宰した至軒寮を戦後改称したもので、日本が明治以来アジア諸国に与えた惨禍の歴史を踏まえ、日本とアジアの青年学生が自治的な共同生活を通じ、相互理解を深め友愛を培う場として今日まで維持されています。穂積先生は自主平等の精神の下、アジアと日本の人材育成に生涯を捧げました。現在私共は、老朽化が進み大きな地震が来れば倒壊の恐れのあるこの新星学寮(東京都文京区本郷所在)を、耐震性・耐火性を備えた建物に建て直す計画を進めています。

**1**957年、寮生が中心となり日本人学生と留学生との共同活動として財界の支援を得つつ、北海道見学旅行を企画し、アジアと日本の認識を深めました。1960年代後半には、寮生がアルバイトにより建設費の一部を調達するなどの自主的努力によって、姉妹寮である蒼生寮が作られ、寮生の輪を拡げ

新星学寮



ました。また、ベトナムの平和と統一を求める運動にかかわった在日ベトナム人留学生や、母国の民主化運動に連帯するタイ人留学生への支援活動の拠点にもなりました。寮生や寮友の多くがアジア学生文化協会(ABK)や海外技術者研修協会(AOTS)の設立・運営に参画・協力したことはよく知られているところです。



寮の食堂で調理をする寮生たち

**国**際関係が多様化し、各地で緊張・紛争を生んでいる今日、日本とアジア諸国の青年学生が、国籍、民族、宗教、思想、言語、性別の違いを尊重しつつ、歴史と伝統を受け継いで、友愛の精神を育むこの寮の存在は、大きな意義を有するものと信じます。三年程前に在寮の留学生から、耐震性を備えた建物に建て替えてほしいとの要望が出されて以来、

寮出身の有志により建て替えについての検討が進められました。建築後半世紀以上が過ぎ、耐震診断では極めて危険であるという結果もかんがみ、このたび下記のような計画案がまとめられました。

**従**来、寮は学生の自主的運営に委ねられ、経済的に余裕のない学生を支援するという意味合いから、寮費を低く抑えてきたため、建替え資金を準備することができませんでした。つきましては、新星学寮やアジア文

化会館をはじめ、広く内外関係者のご賛同を賜り、寮の建替えのための募金にご協力くださいますよう、切にお願い申し上げます。

2017年4月

新星学寮建替え検討会 呼びかけ人代表  
村山 富市 杉浦 正健 小木曾 友

募金事務局  
公益財団法人アジア学生文化協会  
理事長 小木曾 友

## 新星学寮建築・運営計画

### ① 目的

現在の新星学寮の建替え、建築  
アジアと日本の青年学生が、自主平等の精神で相互の理解を深め友愛を培う学寮の建設。  
寮生に求められる基本的態度

1 人間的和合・・・宗教、思想、文化、社会体制の相違を尊重しつつ、共同生活によって相互理解を深め、全人間的和合をはかること。

2 互恵協力・・・相互に協力して学び合い将来におよぶ科学、技術、文化、経済の交流の基礎を築くこと。

3 自治運営・・・寮生、寮会および寮委員会による自治運営。

### ② 資金計画

建築費 9,000 万円  
(内訳) 募金 3,000 万円／自己資金 3,000 万円／銀行借入れ 3,000 万円

### ② 建物概要

<名称> 新星学寮  
<住所> 〒113-0033 文京区本郷 6-6-11  
<構造> 重鉄骨 3階建て  
<敷地面積> 281 m<sup>2</sup> (旧穂積家部分を含む)  
<床面積> 295.78 m<sup>2</sup>  
<居室数> 16室 (17.5 m<sup>2</sup>/室含、1F管理人室1)  
<共有部分> 食堂兼集会室、キッチン、トイレ、シャワー、寮資料等展示コーナー



完成予想図

## ④ 完成予定 2018年6月中

## ⑤ 運営形態および寮費

- ・ 1人1室 寮生自治による自主運営
- ・ 寮友会（卒寮関係者）による支援委員会
- ・ 駐車場収入による銀行借入金の返済
- ・ 寮費は共益費、活動費実費および修繕償却積立金等



3月の寮祭の様子

## 募金募集要項

## ① 募金の名称

新星学寮建築事業募金

## ② 事業の内容

現「新星学寮」の解体および建築

## ③ 目標募金金額

3千万円

## ④ 募金の使途

「新星学寮」の建築、整備資金

## ⑤ 募金の期間

2017年12月～2019年3月（予定）

## ⑥ 募金の対象者

当事業の趣旨に賛同される個人、法人、団体。新星学寮寮友、アジア学生文化協会会員教職員および一般の方。

## 募金のお申込み

## ① ご寄付金額

一口50,000円 何口でも可です。  
二口なら100,000円とご記入ください。  
(一口未満でもお受けします。一口未満の時は1,000円以上でお願いします。また、分割でのお支払いも可能です。)

## ② インターネットからクレジットカードでのご送金

公益財団法人アジア学生文化協会ホームページ (<https://www.abk.or.jp>) の【新星学寮建築募金】ボタンをクリックし、募金ページにお進みいただき、必要事項を

記載の上、クレジットカードにてご送金ください。

## ③ 銀行振込によるご送金

下記、いずれかの銀行口座へお振込みください。

●三井住友銀行(0009)白山支店(228)  
(預金種類) 普通預金  
(口座番号) 6928912  
(口座名義) 公益財団法人アジア学生文化協会  
(住所) 東京都文京区本駒込2-12-13  
(電話番号) 03-3946-4121

● みずほ銀行（0001）本郷支店（075）  
 （預金種類） 普通預金  
 （口座番号） 506934  
 （口座名義） 公益財団法人アジア学生文化協会  
 （住所） 東京都文京区本駒込 2-12-13  
 （電話番号） 03-3946-4121

④ 郵便振替によるご送金  
 郵便局にて郵便振替票によりお支払いください。  
 （郵便振替番号） 00150-0-56754  
 （加入者名） 公益財団法人アジア学生文化協会

## ご寄付金に対する免税措置について

公益財団法人アジア学生文化協会より、「税額控除にかかる証明書」を発行いたします。当協会は、内閣総理大臣より「公益財団法人」の認定を受けており、当協会への寄付金には「特定公益増進法人」としての税制上の優遇措置が適用され、次の控除が認められています。

【所轄税務署への確定申告の際は、当協会が発行する領収証とあわせて「税額控除に係る証明書」（写）の添付が必要となります。年末調整等では控除されませんのでご注意ください。】

### 1. 個人の場合 所得税

「所得控除」又は「税額控除」のうち、ご本人に有利な方式で控除が受けられます。

○所得控除 [総所得金額－(所得控除対象寄付金(※1)－2,000円)]×税率＝所得税額(※1)  
 1) 所得控除対象寄付金：総所得の40%が上限。他の「特定公益増進法人」への寄付金が合算できます。

○税額控除 所得税額－[(税額控除対象寄付

金(※2)－2,000円)×40%＝控除対象額(※3)]  
 (※2) 税額控除対象寄付金：総所得の40%が上限。他の「所得税の税額控除適用法人」への寄付金が合算できます。(※3) 税額控除対象額：所得税額の25%が上限。

### ○相続税

遺贈又は相続により取得した財産を、相続税の申告期限内に当会にご寄付いただくと、その財産には相続税が課税されません。

### 2. 法人の場合

公益財団法人に対する寄附金は、一定の損金算入限度額に相当する金額まで、一般の寄附金とは別枠で損金として扱うことができます。また法人地方税は法人税の納付額を基礎に計算されますので、法人税の減免に伴い地方税も減額となります。

寄付者の記載および顕彰

ご寄付いただきました方は、「ABK ホームページ」、「アジアの友」にご芳名、法人、団体名を掲載させていただきます。

## (公財) アジア学生文化協会創立 60 周年に際して送られた杉浦正健氏からの祝文

## 祝文

公益財団法人アジア学生文化協会の六十周年記念の祝賀会のご案内を頂きましたが、公務の出張と重なり、誠に残念ながら出席できません。ここに、ご出席の皆様共々に、心から祝意を表させていただきます。

創設者である穂積五一先生の志に共鳴し、若き血を滾らせ、新星学寮の先輩や友人たちと力をあわせ、全身全霊で奮闘した日々を思い起こすと、誠に感慨無量です。アジア文化会館の実現は、一言でいえば「無」から「有」を生じたといってもよく、私個人にとっては、正に「青春の金字塔」でありました。

その後、産業界との協力の許、財団法人海外技術者研修協会が立ち上がり、アジア文化会館同窓会が発足し発展し、その中から、タイのTPA、中国の曹其鏞さんの日中学生交流事業に象徴される、アジア文化会館を越える大事業が生まれるなど、五大大陸に友好の輪が広がって参っていることは高承のとおりであります。

私ども創設に関わった者が点じた一灯が、五十年後・百年後には、やがて万灯となって、アジア・世界を照らす大きな光となることを冀い、公益財団法人アジア学生文化協会がその要として大きな役割を果たされることを切望する次第です。

平成二十九年九月十五日

第七十七代法務大臣

弁護士 杉浦 正健

## 新星学寮建替え募金 2018年2月28日現在

募金目標額：30,000,000円 募金期間：2017年12月～2019年3月

募金額：14,924,000円 寄付者名簿(114名)

(あ) 秋庭一衛、厚見利子、新井かよ子、新井良文、安藤哲夫 (い) 池森亨介、石川清、市村幸男、伊藤順、伊藤源之、井上駿、岩井秀明、岩尾明 (う) 上野長一、内田誠、宇戸清治 (え) 江口義弘 (お) 大木隆二、大杉立、小木曾建、小木曾友、小田中聡樹、小野澤史、小野ちず子、小野寺武雄 (か) 加瀬勝子、勝部純基、金子新平、金田和子、鹿野快男/博子、川上剛、川口善行、川崎依邦 (き) 菊地満寿美、城戸康通 (く) 久保哲也、熊沢敏一、倉内憲孝 (こ) 高秉澤、小林正治、小林孝信、小宮信介、小山芳江、近藤恵子、近藤壮一、近藤昇 (さ) 齊藤泰生、三枝辰男、榊正義・正子、笹村出、佐藤正文 (し) 重田誠一、清水勇治、白石勝己、代田泰彦、新宅光 (す) 杉浦正健、鈴木智、鈴木典之、須藤妙子 (せ) 関川弘司、関谷操男 (た) 高橋作太郎、高橋滋、田中克江、檀良 (Dang Luong Mo) (つ) 佃吉一、土屋元子、鶴尾能子、鶴園裕 (て) ティ・メン・フェイ (Tay Meng Fei) (と) (一社) 東京華僑総会、外山経子 (な) 永井ひろみ、中曽根信/不二、中野正明、中嶋正喜、永山寿子 (に) 西岡佐代子、西川恵 (は) 萩原伊助、浜崎永壽、濱屋悦次、林均 (ひ) 氷高律子、平峯克、広江重徳 (ふ) 符祝慧、福壤二、福井弘之、福本一、布施知子 (へ) ヘン・フ・チョン (Heng Fu Chong) (ほ) 穂積亮次、堀香奈美 (ま) 馬杉栄一、松岡弘、松原許子、松本國男 (み) 水田誠、湊勝昭、三代沢史子 (む) 村山富市 (も) 森尾正照 (や) 柳瀬修三、山川民子、山田真美子、山田守一、山本章治 (よ) 米田康三、米長泰、米満良暢 (り) 林登居・ヒサ子 匿名希望1名 以上



## イベント情報

### 第6回『日中友好岸関子賞』論文募集

(公財)日中友好会館は日本と中国の学術交流に貢献する人材育成のため、故岸関子氏の意思のもと『日中友好岸関子賞』を設立いたしました。関子氏は「満洲国」に日本人官僚の妻として激動の歴史を生きたぬき、自らの体験から正しい



歴史認識を伝えていくことの大切さ、「日中友好」の重要性を痛感し、自ら実践しただけでなく、その志を若い世代が継いでくれることを願っていました。そこで日中友好会館では2013年、その願いを実現するためにこの賞を設立、毎年一回、日本の大学あるいは研究機関で学ぶ中華人民共和国東北三省出身の留学生を対象に、彼らが日本で提出した修士論文の中から優秀なもの1点～3点を選んで表彰し、奨励金最高20万円を授与しています。

●応募資格：①中華人民共和国 東北三省（遼寧省・吉林省・黒竜江省）出身の留学生

②2016年度（2016年4月～2017年3月）、2017年度（2017年4月～2018年3月）

の間に日本の大学院で、修士論文学位審査に合格していること。

③人文・社会科学系を専攻し、日本語で書いた論文であること。

●提出する書類（返却いたしません）：①修士論文コピー2部（大学院修了年月を明記）②論文要約1,500字以内 ③指導教授の推薦状 ④パスポートコピー（東北三省出身がわかるページ）

⑤在留カードコピー ⑥住所、Eメールアドレス等の連絡先 ※②と③は任意の書式・A4

●選考スケジュール：第一次選考：2018年7月頃 最終選考：2018年10月頃 表彰式：

2018年12月頃（予定）

●募集期間：2018年3月1日（木）～5月31日（木）（当日消印有効）

●郵送先／お問い合わせ：〒112-0004 東京都文京区後楽1-5-3 第6回『日中友好岸関子賞』

選考委員会事務局 Tel: 03-3814-1261 Eメール: kourakuryo-k@jfc.or.jp 担当: 沼崎

■日本語能力試験 (JLPT) 2018年第1回試験のご案内

実施日: 7月1日 (日) 実施

申込受付期間: 3月26日 (月) ~ 4月25日 (水)

受験料: 5,500円

申込み方法の詳細はWEBサイトにて確認してください。 <http://info.jees-jlpt.jp>

# MEMBERS

## 〈会費とご寄附の報告〉

2017年12月

### 賛助会員

(1口)  
佃 吉一 文京区

### 正会員

(2口)  
榊 正義 港区  
鶴尾 能子 横浜市  
工藤 幹雄 文京区  
(1口)  
宇戸 清治/マリ 八王子市  
浜崎 長壽/和子 堺市  
田守 智恵子 札幌市  
関川 弘司/郁子 千葉市  
池野 朋彦様/晶子 横浜市  
寺門 克郎 習志野市  
堀 香奈美 横浜市  
菅谷 真人 千葉市  
清水 国夫 中郡  
近藤 玲子 秩父市  
伊藤 順 安曇野市  
安藤 哲生 国分寺市  
田中 洋一 柏市  
LIN 林 登居/ひさ子 八千代市  
川口 善行 大田区  
鈴木 秀明 豊橋市  
杉浦 貴和子 港区

井上 駿  
瀬尾 兼秀  
古川 恵世  
中曽根 信  
新田 宜子  
土屋 元子  
福 壤二  
中畠 正喜  
北林 保之  
細川 哲士  
福井 道子  
米林 太久実  
岩井 秀明  
増井 潤一郎  
斎藤 伸子  
久保 亨  
(有) ブルミエ -ACA  
工藤 博司  
小川 輝夫  
高柳 直正  
香月 恵美子  
平峯 克  
菊池 幸子  
松岡 弘  
高橋 雄造  
小原 正敏  
田中 千佳子  
真利子 知之  
大益 牧雄  
和田 昭  
金野 隆光  
竹田 繁

### ご寄附

三橋 隆資 習志野市  
田中 洋一 柏市  
太田 京子 神戸市

さいたま市  
北区  
我孫子市  
標津郡  
西東京市  
千葉市  
横須賀市  
川崎市  
中川郡  
八王子市  
豊橋市  
品川区  
川越市  
中野区  
豊橋市  
文京区  
松戸市  
酒田市  
上尾市  
北区  
川西市  
川崎市  
笠間市  
相模原  
杉並区  
土浦市  
江東区  
中野区  
京丹後市  
横浜市  
柏市  
南陽市

上 高子 世田谷区  
土屋 元子 千葉市  
山口 憲明 日野市  
西本 梶 横浜市  
東京第一友の会 豊島区  
酒井 杏郎 渋谷区  
金野 隆光 柏市

2018年1月

### 特別会員

(1口)  
張 瑞騰 台湾

### 正会員

(1口)  
池田 俊二 横浜市  
石渡 荘介 足立区  
勝山 桂香 千葉市  
松崎 松平 世田谷区  
北星学園大学国際交流センター  
中島 明彦/絢子 札幌市 横浜市

### ご寄附

栗原 静子 気仙沼市  
山本 出 世田谷区  
富永 昭太郎 町田市  
仁木 美代子 文京区

皆様の暖かい御支援に  
感謝申し上げます

## ご入会とご寄付のお願い

当協会は、政府の補助金を受けていない純民間運営の公益法人ですので、財源に限りがあり、皆様方からお送りいただく会費、寄付金は、本協会の活動を支える貴重な財源となっています。何卒ご理解、ご協力をお願い致します。

## 協会のあらまし

名称：公益財団法人アジア学生文化協会  
ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION  
(ASCA)

所在地：東京都文京区本駒込2丁目12番地13号

代表者：理事長 小木曾 友

設立：1957年（昭和32年）9月18日  
故穂積五一氏創設

目的：日本とアジア諸国の青年学生が共同生活を通じて、人間的和合と学術、文化および経済の交流をはかることにより、アジアの親善と世界の平和に貢献することを目的とする。

## ◇主な事業◇

- (1) 留学生宿舍の運営
- (2) 留学生日本語コースの運営（進学希望者向けの日本語を中心とする教育）
- (3) 留学生に対する情報提供支援
- (4) アジア語学セミナー
- (5) 帰国留学生のアジア文化会館同窓会、(社)日・タイ経済協力協会、ABK留学生友の会との連携・協力

## ◇会費（年額）◇

正会員 1口 1万円  
賛助会員 1口 5万円  
特別会員 1口 10万円

会員には広報誌「アジアの友」が無料配布されます。また、広報誌購入だけを希望される方には、購読料年間3千円（十税）でお送りいたします。

当財団に対する寄附金は、所得税、一部自治体の個人住民税、相続税、及び法人税の税制上の優遇措置があります。

2015年度より購読料に別途消費税をご負担いただくことになりました。何卒ご了承下さい。

## 新星学寮取り壊し・建替えのお知らせ

アジア文化会館の母体となり、多くの日本人学生、留学生の生活と学びの場であった新星学寮（文京区本郷）は木造建物の老朽化とそれに伴う耐震化の必要性に迫られていましたが、この度寮友有志の議論を経て、ようやく取り壊し並びに建替えが決まりました。2017年11月末から12月にかけての取り壊し、2018年1月から6月にかけて建替え工事を行う予定です。

これに伴いまして、只今建替えのための募金を募っております。詳細については下記ホームページをご覧ください。

<http://www.abk.or.jp/donation/index.html>

## 後記

当財団の母体である新星学寮が老朽化し、元在寮生有志の議論を経た後、建て替えが決まりました。建替えに当たっては、建設資金の1/3の3千万円を募金で募る計画で、当然ながらも、学生時代に新星学寮のお世話になった寮友を中心に、昨年12月より呼びかけを始めている。そこで、その計画の全体像を今号に掲載し、この事業に関心を寄せられる方々のご協力をお願いする次第です。

(独法)日本学生支援機構が毎年5月1日付で調査している留学生数の推移等に関する2017(H29)年度調査結果が公にされたので、本号で取り上げた。2008(H20)年に策定され、2020(H32)年までに留学生の受入を30万人まで増やすという計画は、昨年度末27万人を越え秒読み入っているが、調査結果からは、日本語学校とそれに連なる専門学校の学生数が50%を越えた。報道でもいろいろ取りざたされている日本の若年労働力の不足を補完しているアジアからの若者の来日の姿の一端がこの数字からも垣間見られるのではないだろうか。(F)

(お詫びと訂正)

本誌前号(530号)に次の誤りがありました。お詫びして訂正いたします。  
P23 左段5行目(誤)GIS z → (正)GIS

## アジアの友 2018年2-3月号

2018年3月20日発行(通刊第531号)

年間購読(送料共)3,000円+税 1部 500円+税

発行人 小木曾 友  
編集 アジアの友編集部  
発行所 公益財団法人 アジア学生文化協会  
東京都文京区本駒込2-12-13 (☎113-8642)  
電話番号：03-3946-4121 ファクシミリ：03-3946-7599  
振替口座：00150-0-56754 E-mail：tomo@abk.or.jp  
ホームページ：(<http://www.abk.or.jp/>)

published by ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION  
(ASIA BUNKA KAIKAN)

2-12-13, Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8642, JAPAN

☎+81-3-3946-4121 ☎+81-3-3946-7599

Email：tomo@abk.or.jp

Home Page：(<http://www.abk.or.jp/>)

会員並びにご購読のお申込みはメール・電話または巻末の振替用紙にてお願いいたします。

